（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	防災を楽しく学ぶサバイバルキャンプ推進事業
事業主体 （連絡先）	岳都・松本 山岳フォーラム実行委員会 連絡先：山ゼミ運営事務局　0263-87-3042
事業区分	（４）安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,841,333　円（うち支援金：　3,834,000　円）

事 業 内 容

・自助、共助をテーマに、被災時の倒木処理や重量物の運搬等を行える人材育成と、被災時の命をつなぐための５要素を学び・体験できる防災キャンプをテーマを変えて開催しました。

① 山岳整備技術を利用した被災時の倒木処理等技術研修
　会　　場：浅間温泉御殿山周辺
　開　催　日：7 月 13～14 日及び 9 月 7 ～8 日
　開催内容：チェーンソー講習及び倍力システム構築

② 防災サバイバルキャンプ
　会　　場：アルプス公園古民家体験学習施設周辺
　開　催　日：8 月 10 日、8 月 17 日、9 月 21 日、10 月 12 日
　開催内容：命の 5 要素とは、を考え学び体験する講習を各回テーマを変えて開催。

③ 信州大学防災キャンプ（信大連携事業）
　会　　場：信州大学松本キャンパス内
　開　催　日：1 月 24 日（PM～夜）
　開催内容：信州大学グリーン社会協創機構と連携し環境と防災を学ぶ防災キャンドルナイトとして開催。

【信大防災キャンプの様子】

【目標・ねらい】

① 被災時の自助能力の向上
② 命の 5 要素の理解・体験
③ 若年層への防災意識の啓蒙
④ 観光商品造成

事 業 効 果

① 倒木処理等技術講習
　定員（目標 60～80 名）に対し、61 名の参加となったが、県外からの参加者が約 2 割おり、宿泊施設との連携事業の可能性を見出すことができた。

② 防災サバイバルキャンプ
　定員（目標 80 名）に対し、80 名の参加があり、回を追うごとに実施内容等の評価が高まり、現役消防士等からの評価も高かった。

③ 信州大学防災キャンプ
　当初定員を 80 名としたが、学生のみならず近隣住民を巻き込んでの開催としたことで、約 350 名の参加が見られた。

※自己評価【　B　】

【理由】
当初計画時の集客は概ねできたものの、周知方法の工夫は必要であった。信州大学との連携は、ネガティブな“防災”を話題性をもった“防災”へ変化させる可能性を感じた

今後の取り組み

避難所開設等、公助としての避難生活ではなく、自助・共助をテーマとしたサバイバル性を伴った活動が参加者からある一定の評価を得たことで、今後継続的に展開する方向性となった。
同時に、被災時というネガティブな要素が、一つのアクティビティとしての可能性も含まれていることから、観光商品化の方向性を模索することとなった。
信州大学との連携事業については、次年度以降も検討することとなりました。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある